

令和8年度

岩倉小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的事項を身につけさせる指導の継続
- ②自分の考えを深めるために、書いたり話したりする活動の充実

校長

三橋 孝史

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告など、様々な機会を通して取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学力差はあるが、課題に熱心に取り組むことができる。 ○漢字の読み書きや四則計算など「知識・理解」の領域においては、ある程度の定着が見られる。 ●問題を的確に読み取る力や自分の考えを書く力、習得した知識等を実生活の中や他教科の学習の中で活用することに課題がある。	・言語や数量、図形に関する基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、生活や他の学習の中で活用することができる。	・全校で統一したふり返りの仕方を掲示して定着を図る。 ・各学年に応じた基本のドリルで7～8割の正答を目指す。 ・タブレットドリルなどを活用して、自分のレベルに合ったドリルの時間を継続して確保する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○話し合い活動や学級会を通して、理由を明らかにして自分の考えを発表できる児童が多い。 ●課題に応じて、必要な情報を取り入れたり、他者の話を聞いて自分の考えをまとめたりすることに課題がある。	・学習したことを活用し、理由を明らかにして自分の考えを書いたり、発表したりすることができる。 ・友達と自分の意見を比べながら話を聞き、自分の考えを振り返ることができる。	・思考ツールの活用方法を共有する。 ・「聞き方名人」を全校で見直し、活用方法を統一する。 ・ペア学習やグループ学習などの機会を増やし、話す・聞く活動の場をできるだけ多く設定する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業や宿題などの与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●自己の課題を把握し、苦手な学習内容に対して、計画を立ててやり抜く粘り強さに課題がある。	・自分の苦手な課題に応じて、タブレットや自主勉強ノートなどを使って主体的に学ぶことができる。	・課題をいくつか提示して、選択して利用できるようにするなどの工夫をする。 ・PBSの手法で、さらに主体性を高める。 ・教師間でワークシートなどを共有し、自己調整学習ができるようにする。 ・「算数フェスティバル」などのイベントを通して自分の目標を持って学習できる機会を持たせる。			